

令和6年度
令和6年度

租税教育実践発表会
租税教育実践発表会

石巻地区租税教育推進協議会

次 第

1 開 会

2 開 会 挨 拶

石巻地区租税教育推進協議会会長
(石巻市教育委員会教育長)

3 実践者紹介 (発表者)

石巻市立桃生小学校	教諭	千 葉 香 織
石巻市立万石浦小学校	教諭	正部家 まどか
女川町立女川小学校	教諭	川 井 麻悠子

(資料提出者)

石巻市立蛇田小学校	教諭	高 橋 慶 太
石巻市立青葉中学校	教諭	鈴 木 悟
石巻市立雄勝中学校	教諭	杉 山 孝 一

4 実 践 発 表

5 質 疑

6 閉 会 挨 拶

石巻地区租税教育推進協議会副会長
(石巻税務署長)

7 閉 会

実践発表会資料

石巻市立桃生小学校

教諭 千葉香織 1

石巻市立万石浦小学校

教諭 正部家 まどか 10

女川町立女川小学校

教諭 川井 麻悠子 16

石巻市立蛇田小学校

教諭 高橋 慶太 22

石巻市立青葉中学校

教諭 鈴木 悟 26

石巻市立雄勝中学校

教諭 杉山 孝一 30

租税教育の実践について



石巻市立桃生小学校
教諭 千葉 香織

石巻市立桃生小学校 6年1組（11名）

- ▶ 素直で、学習に対して一生懸命取り組む児童
- ▶ 「分からない」ことを、進んで表現できる児童
- ▶ 自分の考えを発表することに苦手意識のある児童



男女問わず仲が良く、
何事もみんなで協力して
取り組む学級

発表の流れ

- ▶ 1 社会科の指導過程について
- ▶ 2 租税教育 学級での取組
- ▶ 3 児童の感想から

- ▶ 1 社会科の指導過程について
- ▶ 2 租税教育 学級での取組
- ▶ 3 児童の感想から

第6学年 社会科指導計画

▶ 年間時数（105時間）

◎政治（19時間）

◎日本の歴史（72時間）

◎国際（14時間）

このうち、
「税金」の内容は
1時間のみ！

国民の三大義務

- ▶ ① 勤労の義務
- ▶ ② 納税の義務
- ▶ ③ 教育を受けさせる義務

児童の実態

- ▶ 新聞や読書などの活字離れ
→ インターネット（動画や画像に偏りがち）
- ▶ 政治やニュースへの関心が低い。

→ まずは「税金」への
関心を高めること！

- ▶ 1 社会科の指導過程について
- ▶ 2 租税教育 学級での取組
- ▶ 3 児童の感想から

取組①「租税教室」

▶イラストと税金の種類をマッチング

児童同士で相談して回答。
初めて聞く名前の税金もあり、
分からないことが多いからこそ
疑問が生まれ、意欲が高まった。



取組①「租税教室」

▶「税金」が使われているものを探す

町のイラストを見て、税金が使われているもの
について考える。

もしも、税金がなかったら...

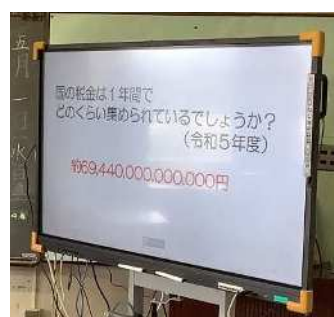
例) 救急車 → 有料になる
橋 → 壊れたまま
交番 → 有料メニュー
町の中 → ごみだらけ



取組①「租税教室」

▶「税金」に関するクイズ 例)

- ・ 1年間で納められる税金の額（約69兆円）
- ・ 種類別の税金の数（約50種類）
- ・ 小学校で6年間勉強するために
かかる税金の額（一人585万円）



取組①「租税教室」

▶模擬投票

3人の候補者がそれぞれ
提案する税金をもとに、
誰に投票するかを考える。



日常生活との関連



取組①「租税教室」

▶「1億円」の重さ体験

たくさんの税金が使われていることから
実際の「1億円」の重さを体験。



取組②「税に関する絵はがきコンクール」

▶ 毎年、6年生を対象に開催

▶ 「夏休みの課題」として学級全員取り組んで 応募

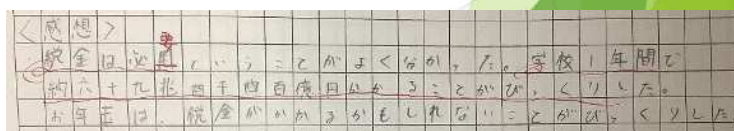
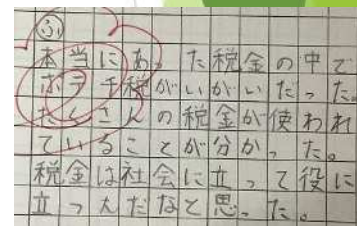


取組②「税に関する絵はがきコンクール」



- ▶ 1 社会科の指導過程について
- ▶ 2 租税教育 学級での取組
- ▶ 3 児童の感想から

- ▶ 身近にたくさんの税金が関わっていることを理解
- ▶ 1年間で69兆円も納税されていることへの驚き
- ▶ 税金の必要性や大切さを実感



ご清聴ありがとうございました



租税教育の実践



石巻市立万石浦小学校

正部家 まどか



石巻市立万石浦小学校について



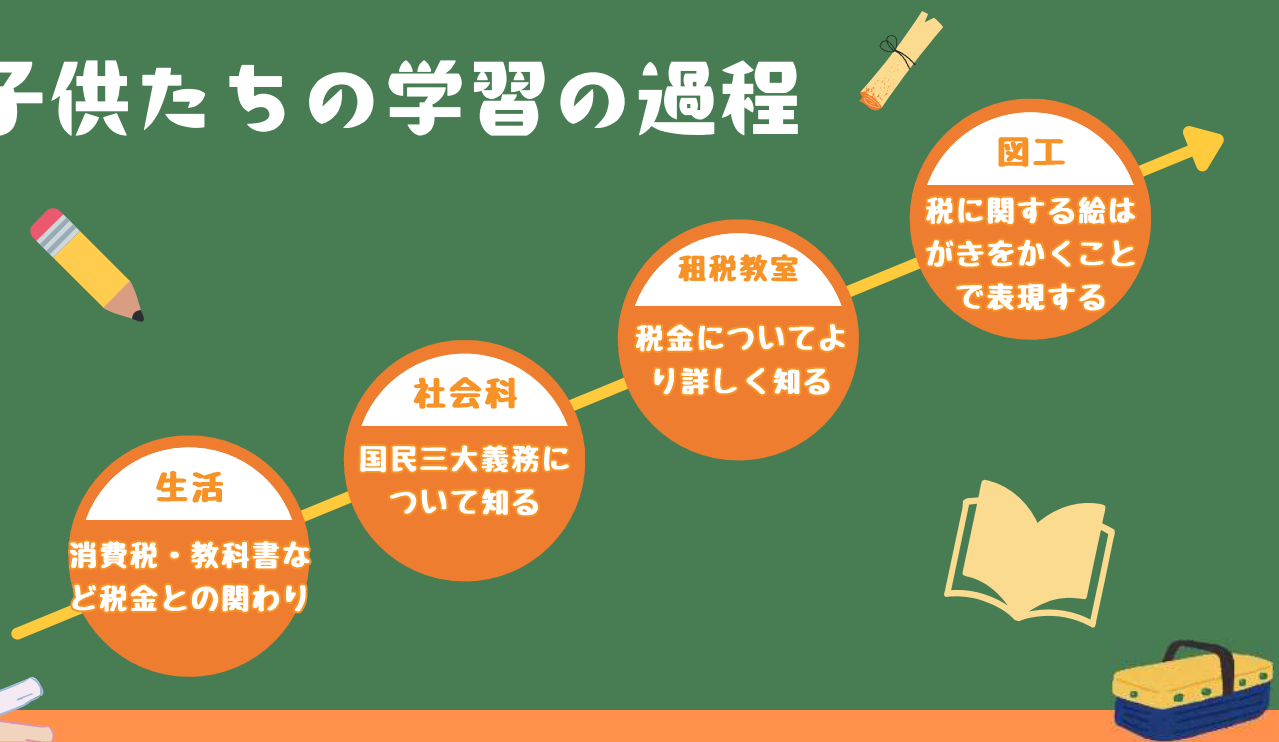
2

- ・ 創立46年
- ・ 全校児童228名
- ・ YKTを合言葉に
- ・ 自然豊かな

1



子供たちの学習の過程

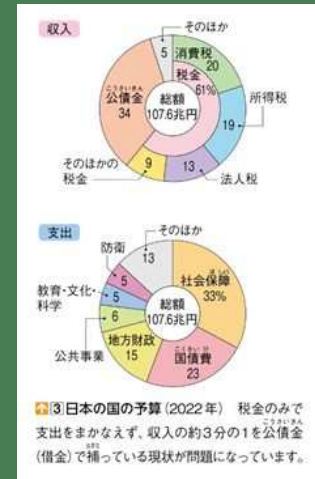
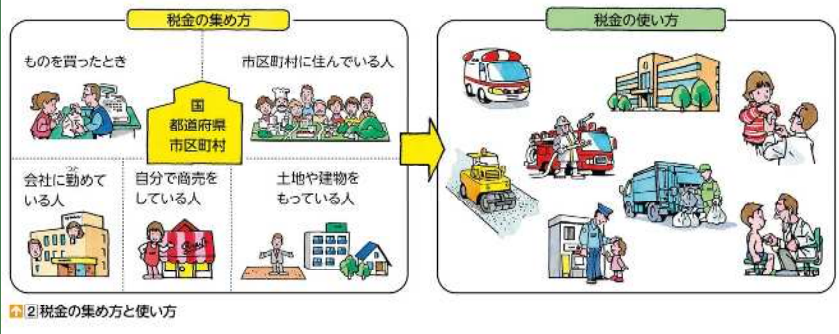


①税との関わり

ニュースや親の言葉、生活の中で様々な税の名前を聞くけれど・・・



②社会科の学習の中で



生活の中に税が深く関わっている
納税者として

税金の使い道を考える

いよいよ明日は国会議員選挙の投票日です。候補者がそれぞれ、最後の演説をしています。

A候補

今の日本は、高齢者の人口が増えています。安心して老後をむかえられるように、65才以上の国民の医療費を無料にすることが必要です。

B候補

新型の感染症の拡大で、収入が減り、教育の費用に困っている家庭が増えています。高校と大学の授業料を無料にすべきです。

C候補

保育園などに子どもを預けられない家庭がたくさんあります。安心して子どもを預けて仕事ができるように、保育園の数を増やすことが必要です。

③租税教室の活用



税金と聞いて知っていること

消費税 所得税

学校 消防 警察

税金が
なくなったら・・・



学びを深める



聞いて



体感して



④絵はがきで表現

私たちの暮らしを・・・



何に使われているか・・・

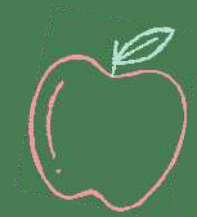


学んだことを絵はがきで表現



Thank
you

ご清聴ありがとうございました



令和6年度

租税教室実践発表会資料



女川町立女川小学校

教諭 川井 麻悠子

1 はじめに

女川町立女川小学校は、東日本大震災後、平成 25 年 4 月 1 日に、女川第一小学校、女川第二小学校、女川第四小学校を女川第二小学校校舎で 1 つに再編・統合して女川小学校として開校した。その後かさ上げ造成された女川の中心地に新校舎が建てられ、小学校と中学校が施設一体型小中一貫教育学校として供用開始した。女川町は、北上山地と太平洋が交わるリアス式海岸があり、天然の良港を形成し、牡蠣や帆立貝、銀鮭などの養殖漁業が盛んで、金華山沖漁場が近いことから、卸売市場では、暖流・寒流の豊富な魚種が多く取り扱われている。中でもサンマの水揚げは全国でも有数であり、大漁を祈る「サンマ de サンバ」という曲(女川体操)を地域の祭りや運動会で踊っている。



女川小学校では、教育目標を「命輝かせて女川を愛し、志をもって未来を創る、心豊かでたくましい児童生徒の育成」とし、目指す児童像として『勉強いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 真心いっぱい』を合言葉に児童一人一人が輝く学校づくりを推進している。また、女川町が定めた「女川っ子仕草」を毎月の生活目標とし、振り返りを行い、定着を図っている。

本校は、施設一体型小中一貫教育学校として、異年齢集団の活動を通して、社会性や豊かな人間性を育むことができるような小中合同縦割り班活動などを取り入れている。

2 児童の実態

本学級は、男子 12 名、女子 20 名、計 32 名で構成されている。単学級ということもあり、互いを理解し合い、仲間と支え合いながら様々な活動に取り組む姿が見られる。また、総合的な学習の時間で女川町の魅力を調べる学習などを行っていることもあり、地元を愛する気持ちも育ってきている。

今回、女川町の復興と税金に関する授業を行うにあたり、児童が女川町の復興にどのくらい税金が使われ、どのようなことに使われたのかを理解しているのか把握するためにアンケート調査を行った。結果は以下のとおりである。

1 女川を復興させるためにたくさんの税金が使われました。どんなことに使われたと思いますか。	・お店を建てる ・学校を建てる ・駅を再築する ・町に彩りをもどす ・病院の修繕 ・公園を作る ・公共施設を建てる など
2 みんながよく遊んでいるマッシュパーク（公園）を作るためにどのくらい税金がかかっていると思いますか？	・10万円～100万円未満（2名） ・100万円～1000万円未満（7名） ・1000万円～1億円未満（13名） ・1億円～10億円未満（10名）

社会科の授業で東日本大震災が発生した時の市や県、国の取り組みなどを学習したこともあり、どのようなことに税金が使われているのか理解している児童が多く見られた。また、施設を作るためにどのくらいの税金がかかるのかも真剣に見当をつけて考える児童が多く、税金に関する興味が高まっていることを感じた。

税金に対する興味は高まっているものの、実際の自分たちの生活と結び付けて考えることはまだできていないので、自分たちの住む女川町という身近な話題から多くの税が使われていることを理解し、税金の大切さに気付くことができるように指導していきたい。

3 指導に当たって

指導に当たり、以下のような手立てを講じる。

（１）税に関する基礎的・基本的な知識の定着を図る

社会科の「わたしたちの生活と政治」の中で扱った、子育て支援の願いを実現する政治と、震災復興の願いを実現する政治から税金の使い道や、国民の願いを実現させるためにどのようなことに税金が使われているかを復習しながら取り組ませることで知識の定着を図っていく。

（２）税に関する興味関心を高める

女川町に実際にある公園や、施設などを取り上げることによって身近な所で税が使われていることを実感できるようにする。また、女川町教育委員会と連携し、具体的な金額なども提示することで、児童の興味関心を高められるようにする。

（３）税の大切さに触れ、納税について考える

女川町の未来を考えていく中で、住みよい町づくりには国や県からの補助金なども使われていることに触れ、税金は自分たちの生活や社会を支える大切なものであることに気付くことができるようにする。

4 指導計画

時	学習内容（総合的な学習の時間 全4時間）
1	○女川町の復興と税 ・女川町の復興にどのくらいの税金がかかったのかを知る。 ・新しく施設を建てるためにはどのような手順が必要なのかを知る。
2	○女川町の未来を考えよう ・女川をよりよい町にするにはどんな施設があるとよいか考える。 ・個人で考えたことを基に、グループで未来の女川について想像し、よりよい女川にするためにはどんな施設があるとよいか話し合いをする。
3	○計画書を作ろう ・計画書を実際に見て、自分たちの願いを伝えるために具体的にどんな施設にすべきか考える。 ・計画書を実際に作る活動を通して、税金の流れなどを確認する。 ・計画書のプレゼンテーションをするためにプレゼンテーションの計画を立てる。
4	○税とわたしたち ・プレゼンテーション発表を行う。 ・税金と自分たちの暮らしの結びつきを知り、納税の大切さについて考える。

5 実践

（１）税に関する基礎的・基本的な知識の定着を図る

税金の集め方や種類を確認し、どんなことに税金がかかるのかを具体例を交えながら学習した。また、女川町の復興の様子を振り返りながら復興特別税について知ることによって、より税金が自分たちの生活と関わりが深いことを認識することができた。税の種類をワークシートに書いたり、どんなことに使われているかまとめたりすることで基礎的・基本的な知識の定着を図ることができた。児童の授業の感想にも「女川町は、税金でたくさん助けられていることが分かった。」「今まで消費税などが上がって嫌だなと思っていたけど、復興などに使われていることが分かり、税金の大切さが分かった。」と書かれていた。身近な税について考えることが、税の必要性について考える良い機会になった。



(2) 税に関する興味関心を高める

児童が毎日通う学校や普段遊んでいる公園の建設費を予想し、実際にかかった費用を知らせた。児童にとって身近な場所である学校と公園を取り上げることで、税金の金額に対する驚きを引き出すことができた。また、自分たちが使っている机や椅子、教科書などにも税金が使われていることを確認し、税金を身近に感じる事ができた。



更に、児童の身近な税である消費税について意見を交換し、自分たちが納めている税金の使い道を考えた。税に対する興味を一層高め、納税の重要性の理解や関心を高めることにつながった。

(3) 税の大切さに触れ、納税について考える

自分たちが住む女川町をより住みやすい町にするために町民の願いをグループで話し合い、プレゼンテーション発表会を行った。町民の願いを実現するためにどんな施設が必要か、どのくらい予算が掛かるかなどを具体的に話し合い、計画書を作成した。計画書の作成に当たり、社会の教科書の『子育て支援の願いを実現する政治』で取り上げられているさいたま市の子ども家庭総合センター「あいぱれっと」について確認した。市民の願いを実現していく過程を教科書で確認し、より現実的に考えられるように児童の計画書作成も、その流れに沿って行った。



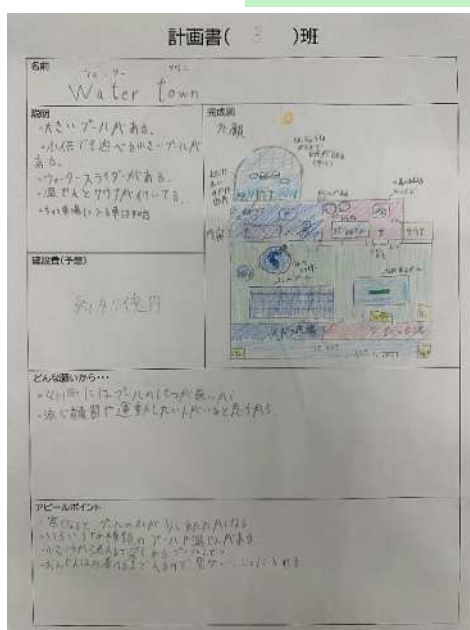
実際の流れに沿って計画書から考えることで一つの施設を作るために多くの時間とお金がかかることを知り、公共の施設を大切に使う気持ちを持つことができた。また、自分たちが不自由なく生活できるように税金が使われていることを知り、納税の大切さを実感することができた。児童の感想からも「大人になったらみんなの幸せのために税金をしっかりと納めたいと思う。」「税金がどんなことに使われているのかしっかりと勉強することで税金の大切さを理解することができた。」など、税の大切さに気付き、納税について考える良い機会になったことが感じられた。

また、このように女川町の未来を考えることで自分たちの暮らしと関連付けて考えることができ、税について関心を持ち、他人事ではなく自分事として税について考える機会になった。

プレゼンテーションの様子



計画書



6 成果と課題

○総合的な学習の時間の「女川町の未来の姿を考えよう」の単元の中に租税教育を関連させることで、税について意欲的に考える時間になった。

○女川町にある施設の建築費を具体的に提示することにより、どのくらいの税金が掛かっているのかより深く考え、施設を大切に使う気持ちを持たせることができた。

○よりよい生活にするための税金の在り方を考えることで納税の大切さを知り、税に対して関心を持つことができた。

▲4時間という少ない時数での指導であったため、税の種類などを絞って指導することになった。今後は指導計画を見直し、租税教育の時数の確保をしっかりと行っていきたい。

令和6年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立蛇田小学校

教諭 高橋 慶太

1 はじめに

明治6年6月1日に開校した蛇田小学校は、現在児童数735人と石巻市で一番児童数の多い学校である。学区内には国道45号線や県道16号線蛇田バイパスが通り、JR仙石線蛇田駅や三陸自動車道石巻河南I.Cがある。大型商業施設を中心に店舗も多く、あゆみ野、のぞみ野、恵み野といった新興住宅地が広がり、石巻合同庁舎や公園などの公共施設も数多くある。

本校は、「豊かに学び、共に伸びようとする子どもの育成」を学校目標として掲げ、目指す児童像を「思いやりのある子ども」「生き生きと学ぶ子ども」「健康で明るい子ども」としている。学校と家庭と地域が連携しながら、「児童が明日も行きたくなる学校づくり」を目指し、教育活動を進めている。

租税に関する学習は、政治と私たちの生活との関係性や自分たちの権利と義務について学び、税金の働きについて理解する単元として、6年生の社会科の学習の政治・国際編で扱っている。本単元の目標は私たちの税金がどのように集められ、どのような目的で使われているのかを知り、税に対する理解を深めることであり、学習を通して児童に身近な税金について考えさせ、政治についての興味関心を高めることができる。

2 児童の実態

本校の6学年の児童は、テレビのニュース等の情報から「消費税10%」「増税・減税」など税に関する言葉をいくつか知っている。税金が私たちの暮らしのために使われていることも知っている一方で、具体的に何に使われているかまでは十分に理解していない。また、消費税以外の税の徴収の方法を知っている児童はほとんどいなかった。さらに「税金を取られる」という感覚があり、税金に対して負のイメージを持っている児童も少なくない。

以上のことから、この学習を通して、税に対する基礎的な知識を学び、納税者としての意識を高めていきたい。

3 指導に当たって

児童の実態を踏まえ次の4つの手立てを講じていく。

① 自分たちの暮らしと税金との関わりについて気付かせる。

憲法で定められている自分たちの権利を学び、生活の安定と向上のための公共的事業の重要性を知ることで、その財源になる税金が必要になることを理解させる。

② 税金に対しての正しい知識の定着

集められた税金が何に使われているのかを調べ、お金の流れを確認しながら、税金についての基礎的な知識の定着を図る。

③ 学びを深めるためのゲスト・ティーチャーの活用

税務署からゲスト・ティーチャーを招き、租税教室を行うことで、消費税以外の税の種類や具体的な税率などについて知ること、学びを深める。

④ 他の単元や教科と関連付けた指導

歴史の学習の中で、税が導入された経緯を知り、時代の流れとともに目的や使われ方が大きく変化してきたことに気付かせる。また、図工の学習で、「税に関する絵はがきコンクール」に取り組むことで、税を大切にする意識を養う。

4 指導計画

(2時間扱い)

時 間		学習内容	指導上の留意点	評価規準
事前学習		動画の視聴	○アニメ動画を視聴し、税金の働きについて知る。 【手立て①】	
1	授業	実践授業Ⅰ 「私たちの願いを実現する政治」 指導者：各担任	○私たちの権利と義務について理解した上で、公共事業や社会保障の必要性を知る。 ○税の集め方や使われ方など基礎的な税金の流れを学ぶ。 【手立て②】	○税金は私たちの生活の安定のために必要なものであることを理解している。 (知識・理解)
2	租税教室	実践授業Ⅱ 「租税教室」 ゲストティーチャー：石巻税務署職員	○税金についての講話を聞き、納税が町を支えていることを具体的に知る。 【手立て③】	○税金と私たちの暮らしが密接に関わっていることを理解している。 (知識・理解)
事後学習		税に関する絵はがきコンクール 日本の歴史から見た税金について学ぶ	○授業で学んで感じたことを絵に表す。 ○歴史を学ぶ中で、昔と現代の税の違いに気付かせる。 【手立て④】	

5 実践

(1) 自分たちの暮らしと税金との関わりについて気付かせる。

「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を事前学習として視聴した。短い動画の中で、「もし税金がなかったら」という主人公の気持ちに共感しながら、集中して動画を見る児童が多かった。税金がない世界での混乱を見て、児童の税金のイメージが大きく変化した。「税金は必要なもので、何に使われているのかを知りたい。」「どのように集めているのかを知りたい。」といった感想を聞くことができ、税金が自分たちの生活を支えているということを実感させることができた。

(2) 税金に対しての正しい知識の定着

社会科の学習で、基本的人権の尊重における国民の権利について再確認し、その権利を国民全員が平等に受けるために税金が使われており、納税は国民の義務であることを授業で取り上げた。税金が、具体的に何に使われているのか自分たちで調べ、学校の運営にも使われていること、近くの公園の建設や維持、震災復興にもたくさんの税金が使われていることを理解できた。調べ学習を通して、児童は一層税金の重要性に気付くことができた。

(3) 学びを深めるためのゲスト・ティーチャーの活用

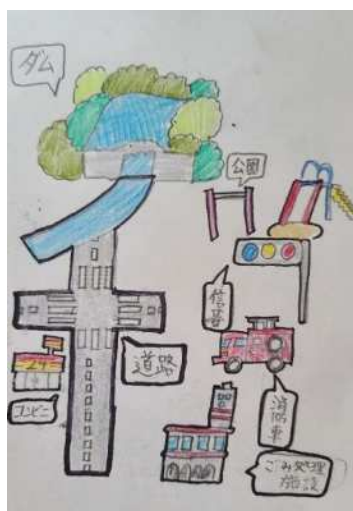
税務署の職員の方から所得税や自動車税、法人税など様々な税があることを教えていただいた。消費税以外にたくさんの税があることに児童は驚き、興味・関心を高めていた。また、軽減税率の説明では、物によって税が違うことを初めて知った児童が多く、学びを深めていた。税收の話では、約70兆円ものお金が集められたことを教えていただいた。最後に一億円レプリカに触れさせていただき、児童はお金の重みと大切さを改めて実感していた。租税教室を通して、学びが大きく広がり、税についての興味・関心を高めることができた。



【租税教室の様子】

(4) 他の単元や教科と関連付けた指導

飛鳥時代から奈良時代にかけての税、租・調・庸の学習では、現代の税金との違いを比べることで、児童の興味・関心を高めることができた。今後も兵役や検地による年貢、地租改正といったように歴史の学習を通して税に関する学習に継続して取り組んでいく。また、図工の学習で行った税に関する絵はがき作りでは、どの児童も税に対する思いを一生懸命に表現していた。



【税に関する絵はがき】

6 実践を終えて

今年度の租税教育は、社会科の学習だけでなく、動画を中心とした事前学習やゲスト・ティーチャーを招いての「租税教室」、他教科と関連付けた指導など、多面的な手立てで計画的に学習活動を展開することができた。どの学習も効果的で、児童の税に関する興味・関心が高まり、税に関する基礎的な知識が定着し、学びを深めることができた。また、税に対する負のイメージを払拭することもできた。

しかし、小学6年生ということで納税者としての意識はまだ低く、「税金は大人が納めているもの」と思っている児童も多い。そこで、今後も様々な学習を通して、税や行政についての知識・理解を深めさせ、「国民の義務として税金をきちんと納めることで、権利として行政サービスを受けることができる」という意識を高めていく必要がある。

令和 6 年度

租税教育実践発表会資料

石巻市立青葉中学校

教諭 鈴木 悟

1 はじめに

本単元は中学校学習指導要領公民的分野B 私たちの暮らしと経済（2）国民の生活と福祉の役割ア（イ）及びイ（イ）国民生活と福祉の向上に該当する。既習事項である日本国憲法第30条「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負う」に触れながら、少子高齢化、環境、社会資本の整備などをはじめとする社会問題について、財政の持続可能性と関連付けながら、税の負担者として自分の将来と関わらせ、税制度について多面的・多角的に考察させたい。

2 生徒の実態（3学年生徒 男子27名 女子27名 計54名）

本単元の学習内容に関するアンケートを行った結果、次の回答が得られた。

社会科アンケート（41名/54名回答）

知っている税金をあげなさい。（複数回答可） 消費税（35人） 所得税（21人） 贈与税（6名） 固定資産税（5名） 法人税（5名） その他少数意見 自動車税、法人税、国税、地方税、 酒税など
税金はどのようなことに使われていると思うか。 救急車 消防車 教科書 図書館などの公共機関の建設・整備 公務員の給与 道路の整備 防衛 年金 医療費 警察 外国に寄付 公園 学校 生活保護
税金を増やすことに賛成か反対か。その理由も含めて 賛成（7名） 反対（21名） 分からない（13名）

アンケートから、自分たちの生活に身近な消費税が最も多かった。中には、固定資産税や贈与税、法人税などを挙げる生徒も見られた。税金の使われ方についても、身近な学校や警察、消防、図書館、医療費など多様な用途が挙げられた。増税については、約半数が反対であった。

このことから、自分たちの生活に身近なところで使われる税に関心があり、そのため増税に関して否定的な意見が多いことが予想される。税金によって、様々な場面で生活が支えられていること、納税することの大切さを理解し、税について興味を持ち、将来の納税者としての意識を高めることにつなげたい。

3 単元の目標

（1）知識・技能

財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。

（2）思考・判断・表現

対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。

（3）主体的に学習に取り組む態度

国民の生活と福祉の向上について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4 学習計画 (本時 1 / 4)

主な学習内容	学習目標	評価基準
1 私たちの生活と財政 (本時)	税金の役割を知り、現代社会の諸問題と関連付け考察し、表現できる。	税金の役割とどのように使われているかに着目し、現代の日本における社会問題と関連付けながら考察し、表現している。(思判表)
2 財政の役割と課題	身近な社会資本や公共サービスについて調べ、政府が果たしている経済的な役割と課題を理解する。	公共サービスはどこがどのように提供しているか、本文から読み取る学習を通して理解している。(知技)
3 社会保障の仕組み	我が国の社会保障制度の仕組みについて理解する。	私たちが日常生活の中で利用している社会保障制度について、理解している。(知技)
4 少子高齢化と財政	少子高齢化社会における社会保障制度の充実と経済成長の両立が難しい理由を、増税の影響に着目して考察し表現する。	社会保障制度の充実と経済成長との両立が難しい理由を、増税の影響に着目して考察している。(思判表)

(1) 本時の指導過程

段階	主な学習活動 ・予想される生徒の反応	教師の支援・留意点	評価
導入	1 税金に関する4択クイズを出題する。 「税金で負担している、中学生一人当たりの教育費は、一年間いくらか」 ・わからない ・10万円くらいかな 「国の収入(歳入)のうち、税金の占める割合は何割か」 ・借金もあるから、足りないのは確か。 ・50パーセントくらいかな	○あまり解説をせずに答えさせる。 ○一月幾らかかるかを予想させる。  ○歳入の説明を家計に置き換えて説明する。	
	2 本時の課題を提示する。 税金はどのようなことに使われるべきなのか		

展開 (35分)	3 アンケートの結果を紹介する。 4 自分が総理大臣となって、税の使い道を自分で決められると仮定したとき、もっとも優先されるべきと考えたことをその理由を含めてワークシートに記入する。  5 同じ考えのグループを作り（4人程度）意見を交換しながら班の考えをまとめ、全体の発表の準備をする。 ・私もそう考えた。 ・この問題が一番重要だ。 6 班ごとに、自分たちはなぜそれを選んだのか発表する。 7 すべての班の意見を聞き、考えが変わった人は、他のグループへ移動する。	○長くならないようにする。 ○相談せずに、自分の考えを記入するよう声掛けをする。 ○記入が進まない生徒には身近な問題や社会問題と関連付けて記入するよう声掛けをする。 ○他者の意見もワークシートに記入するよう声掛けをする。 ○メモを取りながら、他の班への意見を考える。 ○自分の意見と比べながら、聞くよう声掛けをする。 	社会問題と関連付けながら考察している。【思考・判断・表現】（ワークシートの記入）
終結 (10分)	8 授業を通して、税金をどのようなことに使うべきかそれを選んだ理由をワークシートに記入する。	○記入が進まない生徒に対しては、授業やグループでの話合い、発表を聞いた感想を書くように、机間指導をしながら助言する。	税についての課題から現代社会に見られる課題や解決策を考え、今後の生活に生かそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】（ワークシートの記入）

(2) 本時の評価

評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価 例 (A)	努力を要する生徒への 指導の手立ての例 (C)
【思考・判断・表現】 税金はどのように使われるべきかについて対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し解決策を表現している。	対話的な活動を通じて、他の生徒の意見を聞きながら、自分の考えを深め、具体的な解決策を自分の言葉で表現している。	他の生徒の考えを聞き、税の大切さを理解し、自分の考えをまとめることができる。
【主体的に学習に取り組む態度】 国民生活と福祉の向上について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く考え、主体的に社会に関わろうとしている。	現代社会に見られる課題や解決策を税と関連付けながら多面的・多角的な視野で考察し、今後の生活に生かそうとしている。	他の生徒の考えを聞き、税について関心を深め、自己の解決策につながるような考え方に気付かせる。

(3) ワークシート

私たちの暮らしと経済（私たちの生活と財政①）

3年2組（ ）番 氏名。

税金に関するクイズ。

① 中学生1人当たりの年間教育費の税金での負担額はいくらか。

② 国の歳入（収入）のうち、税金の占める割合はおよそ何%か。

学習課題。

税金はどのようなことにつかわれるべきなのか？

Q もし、あなたが内閣総理大臣になり、税金の使い道を自分で決められるとしたら、税金をどんなことに優先的に使いますか？理由も含めて考えてみよう。

どんなことに使いますか？

そう考えた理由。

(メモ)

振り返り。

税金がどんなことに使われるべきか考えることができた。(A B C D)

他の人の意見をしっかり聞き、自分の意見と比べ考えることができた。(A B C D)

感想（授業の感想や税についての感想など自由に書いてください）

5 生徒の感想

- ・他の人の色々な意見を聞いたのがよかった。他の人の意見で、考えが変わった。
- ・本当に必要な所に税金が使われてほしい。
- ・医療も大切だと思うが、国民の誰もが使う道路などのインフラ整備が大切だと思った。
- ・そもそも税金が足りないと感じた。
- ・色々な問題がつながっていて面白いと感じた。身近な問題も多かったが、私が使い道を決める立場だったら、みんなが助かるインフラ整備とか公共施設に使いたい。
- ・色々考えさせられて楽しい授業だった。
- ・医療とか年金とかも大切だが、教育など子どもたちにお金を使ってほしい。
- ・高齢化よりも少子化対策に使うべきだと思った。
- ・災害の復興を何よりも優先すべきだと思った。
- ・医療を発展させ、世界一の国にしたい。

6 成果と課題

○成果

- ・税金がどのように使われているか、また、国の歳入に占める税金の割合を理解していた。
- ・他の人の意見を聞きながら、過疎化や少子化、町おこし、医療、年金などの問題を関連付けて考える生徒が多くいた。
- ・この後学習する内容につなげられると感じた。

●課題

- ・税に関心を持たせることができたが、将来の負担者として肯定的にとらえたかは疑問が残るので今後の授業で改めて意識させたい。
- ・身近なところでの意見が多かったので、今後の授業では、国防や経済、外交など広い視野・視点で考えさせていきたい。

令和 6 年度

租税教育実践発表会資料

石巻市立雄勝中学校
教諭 杉山 孝一

1. はじめに

日常生活において、納税や税の意義や役割等を実感することが多々ある中、今後社会の一員となる中学生に財政や租税のあり方について、現代社会の特色や将来の持続可能性と関連させて考察させることは非常に大切であると考えます。

本単元は、中学校学習指導要領社会編の公民的分野「B 私たちと経済」、(2)「国民の生活と政府の役割」に該当する。

財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解することは、財政の歳入・歳出における内容や現状を具体的に取り上げ、財政が社会資本の整備や外交、防衛などの公共財の提供によって、現世代のみならず将来世代をも含め、持続可能な社会の形成に資することを念頭に、人々の生活を保障する国民福祉の観点に立って行われるべきものであることを理解できるようにすることを意味している。

また、国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解できるようにするとともに、税の負担者として租税の使途や配分の在り方を選択・判断する責任があることなどについて理解と関心を深めるなど納税者としての自覚を養うことが大切である。

2. 生徒の実態

(1) 学校について

本校は平成29年度、小中併設校として現在の地（石巻市雄勝町大浜）で開校した。

平成23年3月の東日本大震災により旧雄勝町は壊滅的な被害を受け、その影響から多くの住民が他の地区に移転し、それに伴い児童・生徒数も減少している。

本年度の児童・生徒数は、小学生21名、中学生9名で今回の授業を行った中学3年生は実に1名という現状である。様々な活動において、小学校との連携を図るなど9年間でたくましい成長を目指している。また地域との関わりは深く、雄勝巡りや漁業体験など雄勝ならではの活動を積極的に行うなど、地域全体で子どもを育成しようという風土も醸成されている。

(2) 生徒について

上記のように、3学年の在籍は1名である（昨年度まで2名であったが漁村留学生1名が転校）。何事にも真面目で意欲的に活動できる生徒であり、学習のみならず学校生活においてはよきリーダーとして児童・生徒の中心的存在である。

社会科の授業においても真摯に向き合い、与えられた課題に対して意欲的に取り組み理解力が優れている。一方で、1名という現状から多様な意見に触れることが少なく、思考が広がりにくいということが課題である。授業では指導者があえて反対意見を提示したり、多様な資料を提示するなど工夫する必要がある。

3. 指導にあたって

税の必要性やその効果等についてはもちろんであるが、次時以降で扱う日本の財政や現代社会の課題（少子高齢化や社会保障の現状）等にも触れながら、将来に向けた持続可能な税の在り方について、税の負担者としての自覚と課題解決に向けた態度を養いたい。

指導における本校の特徴として、小中連携のもと主要五教科の中学校教員が小学6年生の授業を受け持っている（これにより小学5・6年生の複式が解消される）。

このことにより、6年生で扱う税金の学習に実際に関わることができ、そこでの学習を3年後の公民の学習に直接役立てることができている。こうしたメリットを活かすことも

系統的な学習という観点で有効である。

4. 指導計画（全4時間）

学 習 活 動	学 習 目 標	評 価 規 準
1 私たちの生活と 財政（本時）	税金の種類や仕組みについて、資料を活用しながら説明する。	税金の種類や仕組みについて、資料を活用しながら説明できる。 （思・判・表）
2 財政の役割と課題	財政が抱える課題に対して考察し、表現する。	財政の課題について将来を見据えながら考察し、表現している。 （思・判・表）
3 社会保障の仕組み	社会保障制度の仕組みについて理解する。	日常生活の中で利用している社会保障制度について理解している。（知・理）
4 少子高齢化と財政	少子高齢化における社会保障と財政との兼ね合いについて、その解決に向け関わろうとする。	将来を見据え、社会保障と財政について主体的に社会に関わるよう自己表現している。 （主体的に学習に取り組む態度）

5. 授業について

（1）題材名「私たちの生活と財政」

（2）本時の目標

税金の種類や仕組みについて、資料を活用しながら説明することができる。

【思考・判断・表現】

（3）指導過程

段階	学 習 活 動	指導・支援上の留意点 ●評価（観点）＜方法＞
導入	1. 税金の種類を確認する。 Q「以下の文から考えられる税は？」 杉山先生は教員で自宅（持ち家）から車で通勤しています。先日の休日はゴルフをして温泉に入り、帰りにお酒を買って帰りました。	●様々な税の種類を理解できたか。 （知・技）＜発表＞ ・小学6年生で学習した税の種類を想起させながら行うことも。
	2 主な税金と納税の仕方を理解する。 ・直接税と間接税 ・国税，都道府県税，市町村税	・教科書の資料[3]『主な税金』を活用する。
展開	3 税金の役割を理解する。 Q「税金が使われているもの・ひと・ことを挙げ，その必要性は？」 ・人々の生活に欠かせないもの ・公共サービスの必要性 ・学校や教科書など身近なもの	●税金の役割や必要性について理解できたか。（知・技）＜発表＞

	4 税金の徴収方法について説明する。 Q「よりよい徴収方法はどんな方法だろうか？」 ①直接税と間接税の割合から ・他の国のように間接税を増やす ・間接税は低所得者に負担増 ②所得税の累進課税等から ・高額所得者へより課税を ・子どもを持つ世帯への優遇を ③生徒自身が考える徴収方法 ・消費税の割合 ・累進課税の課税対象所得額と税率	・税の公平と負担能力を考えさせる。 ・他の国の状況を知らせる。 ・教科書資料[1]の『国一般会計予算』で厳しい財政状況に触れる。 ●税金の種類や仕組みについて、資料を活用しながら説明できたか、また自分独自の考えを発表できたか。 (思・判・表) <発表・作成資料> ・少子高齢化や今後の社会保障等についても考えさせたい。 ・納税における家計や企業の負担と経済成長についても考えさせたい。
まとめ	5 税の意義や役割 Q「税の意義や役割について、まとめよう」	・税の意義や役割についてまとめられたか。 (思・判・表) <発表・ワークシート> ・将来に向けた持続可能な思考を継続させていきたい。

6. 成果と課題

税の学習を通して、税と自分の生活が大きく関連していることを認識するとともに、将来の社会を展望することができた。特に税の徴収方法を考えたときに、少子高齢化や国の財政状況等、多面的・多角的に考察、構想、表現しようとしたことは社会の形成者に必要な資質・能力の基礎を養うことができたと考える。

一方で、生徒が一人ということもあり多様な意見の交換など思考が膨らむことが難しい現実がある。今後も折に触れ様々な資料等を活用し多様な意見や考えに触れさせていきたい。

7. おわりに

今回資料担当校として、このような機会をいただき感謝いたします。役職定年制により久しぶりに教諭として授業をする立場になり、教材研究の傍ら「税の意義や役割」について深く考える機会となりました。

実は30年前の平成6年にも発表の機会をいただき、30年ぶりの発表でした。30年前は消費税は3%で5%にするかどうかで議論されていた時期です。この30年間で税制の在り方もだいぶ変容し、今は将来にわたって持続可能な税制の在り方が問われています。

私たち中学校社会科教員は、今後も急速に社会が変化することが予想される未来に生徒を送り出すわけで、税への適切な考えはもちろんのこと、広い視野で主体的に生きていく人材を育成していかなければと思う次第です。